



高知大学農林海洋科学部・農学部
Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University

後援会だより

目 次

ご挨拶 農林海洋科学部・農学部 後援会長 佐野 健一	1
ご挨拶 農林海洋科学部長 農学部長 尾形 凡生	2
農林海洋科学部・農学部担当教員の紹介	3
農学専攻ニュース	5
学生寄稿	
農林海洋科学部	6
農学部	13
大学院	16
就職等進路状況資料	21
後援会資料	
平成30年度農林海洋科学部・農学部後援会役員名簿	23
平成30年度 予算書	24
平成29年度 決算書	25
後援会の活動状況	26
平成30年度 保護者会の報告	27
高知大学農林海洋科学部・農学部後援会規則	29
平成30年度 学年暦	30
物部キャンパス Photo Album	31
高知大学 学歌	35

ご挨拶

農林海洋科学部・農学部
後援会長 佐野 健一



会員の皆様におかれましては、平素より後援会活動にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度、後援会会長の大役を仰せつかりました佐野健一と申します。誠に微力ではございますが、保護者代表として、後援会の役員・事務局の皆様方とともに、ご子息、ご息女が充実した大学生活を送ることができるよう教育事業の援助ならびに会員相互の親睦を図ってまいりたいと考えております。

高知大学は、1949年（昭和24年）5月、国立学校設置法の公布と同時に、国立大学一期校（旧帝国大学7校を含む全国28大学）として創立されました。そして、創立以来七十年、地元の皆様方をはじめ関係各位のご尽力により、創立当初の3学部（文理学、教育学、農学）から、現在は6学部（人文社会科学、教育学、理学、医学、農林海洋科学、地域協働学）および大学院研究科をはじめ、数多くの研究所・観測所ならびに学校、病院など各種施設を擁する総合大学へと飛躍的に発展して参りました。

大学創立と同時に設置された農学部は、本学の理念である「地域社会および国際社会に貢献しうる人材育成と学問研究」を実現するため、今日に至るまで、積極的な教育研究活動を推進して参りました。そして、教育研究活動の更なる深化を図るため、「人と環境が適切な共生関係を保ちながら持続的発展する未来社会」の構築に貢献できる意欲ある人材の育成、農学・海洋科学分野の専門的知識、実践的技術および豊かな教養を身につけて物事を広い視野から科学的に捉えることができ、課題発見能力、自律的な問題解決能力、更には世界に向けての発信能力を備えた人材の育成を目的とし、新たに「農林海洋科学部」として、一昨年、その一步を踏み出しました。

後援会では、ご子息、ご息女が本学部の研究活動を通じて大きく成長し、自分自身の力で問題を解決して将来を切り開くことができる逞しい力を身につけることができるよう、保護者の方々とともに見守りながら、学生の研究活動や福利厚生事業等への支援を続けて参りたいと考えております。

会員の皆様におかれましては、今後とも、後援会活動への一層のご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

学生諸君においては、常に、大人社会の一員であるという自覚を持って行動して頂きたい。そして、良識あるバランスのとれた人格を養うとともに、学問や研究活動を通じて幅広い知識を身につけ、論理的思考力を磨いていってください。

大学を卒業してから気づく事のひとつに、「長い人生の中で、この僅かな、たった4年間ではあるが、大学生生活の何と密度の濃かったことよ。」という思いが挙げられると思います。どちらかと言えば、きれいに敷かれたレールの上を走ってきた中学・高校時代は、独立した一個人の人格形成という意味では、まだまだ萌芽期であると言えます。

しかし、大学に入ってから、今までにない自由が得られた分だけ、自ら考えて自ら行動せざるを得ない状況が数多く発生します。その際に、自分の言動の選択・納得・後悔を繰り返す過程で、それぞれに個性ある人格が形作られていきます。みなさん、たくさん本を読んでください。そして、友達とたくさん語り合ってください。

みなさんの大学生活が実りある豊かな体験の連続でありますよう、切に願う次第です。

ご挨拶

農林海洋科学部長
農学部長

尾形凡生



後援会の皆様には、日頃より、学部教育運営および学生の福利厚生に多大なご支援を賜り心より御礼申し上げます。

平成28年度に改組した農林海洋科学部が4年目を迎え、新学部の最上級生たちは、昨年秋に、卒業論文制作のために各指導教員の研究室に分属いたしました。卒業研究は、建前としては、他の講義科目や実習・演習と同じ専門授業科目のひとつなのですが、実際には、「理系学部に入学するのは、卒業研究を行うためである」と言ってもいいくらいの重要な位置づけとなっています。

卒業研究では、各学生は『卒業論文』を執筆するために、1年、あるいはそれ以上の時間をかけてそれぞれの研究課題に取り組むのですが、この研究課題には、「これまで誰もやったことのない、世界でたったひとつの、意義あるテーマ」が選ばれるという不文律があります。すなわち、大学の学部生ではありますが、研究に関しては、一人前の研究者の一員として、解明するに値する意義ある課題を見出し、科学的方法で正しくその課題に取り組み、そしてその成果をわかりやすく世間に公表するという一連の学術活動を、身をもって経験します。この課題探求と科学的かつ論理的解決のプロセスを身につけることが、卒業後、どんな職業に就いたとしても、そこで社会に貢献できる人材として活躍するための糧となるであろう、そのことが私たち大学の、そして理系学部の存在意義でもあります。

平成30年度ならびに31年度の4年生の保護者の皆様は、機会がありましたら、お子様方に「今何の研究をしているのか、これから何の研究をするのか」をお尋ねになってみてください。特に31年度の新4年生の場合は、まだ、準備段階でテーマが曖昧模糊としていることもあろうかと思いますが、研究室が取り組んでいるテーマや自分の卒業論文課題の意義や成果について、難しい専門用語をちりばめた説明が、答えとして返ってくるのではないのでしょうか。

新3年生は、1年間の専門科目の履修を経て、本年度1学期終了後の指導教員の選択に向けて、どの教員の研究室で卒業研究に取り組むかを見極めようとしています。また、新2年生は、教養課程と言え、る共通教育科目中心の朝倉キャンパス生活を終え、いよいよ物部キャンパスでの本格的な専門教育に入ることになります。いずれの学年も、ぜひ、農林海洋科学が拠って立つところの重要性、ならびに、やがては農林海洋科学の研究に自分が入っていくことを意識して学業に励んでもらいたいと思います。

最後になってしまいましたが、平成31年度新入生の保護者の皆様。高知大学農林海洋科学部生は、広大な自然の中で、のびのびと、かつ、たっぷりと時間を使って豊かに学び、そして、いのちと人の暮らしに関わる高い素養を身に着けた社会人として羽ばたくべく研鑽を積んでおります。新入生にも、この高知という農林海洋科学を学ぶに格好の土地で充実した4年間を過ごしてもらおうべく教職員一同奮励してまいりますので、ぜひ皆様も声を合わせて、若者たちを応援くださいますようお願い申し上げます。

農林海洋科学部・農学部担当教員の紹介

農林海洋科学部・農学部を担当する教員、主な研究テーマ・活動を紹介します。

農林資源環境科学科

暖地農学主専攻領域

教授	尾形 凡生	果樹の成長制御機構の解明とケミカルコントロール技術の開発
教授	島崎 一彦	試験官内の組織培養によるランの苗生産技術の開発と希少植物の生態調査
教授	村井 正之	稲遺伝・育種、老人・病院用ご飯、米粉パン用極多収晩生品種、良食味、鑑賞用稲
准教授	西村 安代	野菜の養液栽培・生理障害・園芸施設の光環境・環境保全型農業
准教授	増田 和也	農山漁村における資源利用と社会変容に関する研究
准教授	松川 和嗣	高知県独特の和牛である土佐あかうしの生産振興にかかわる研究
准教授	宮内樹代史	園芸ハウスの環境制御技術の開発、植物生産流通システムの最適化
准教授	宮崎 彰	イネの高温登熟性・乾燥適応性に関する研究、熱帯有用植物の栽培生理
講師	濱田 和俊	果樹の開花・果実発育の制御およびメカニズムの解明
講師	松島 貴則	労働力問題と農業サービス、土地利用型農業の研究
講師	山根 信三	循環型農業生産・高品質種なし果実の作出・GTL利用省エネ多収農法

自然環境学主専攻領域

教授	荒川 良	天敵昆虫を利用した農林・衛生害虫の防除の研究、害虫管理技術開発
准教授	伊藤 桂	ハダニ・昆虫類を用いた行動生態学・進化生態学
准教授	手林 慎一	植物の病害虫や環境に対する抵抗性の化学的・分子生物学的解明
准教授	森 牧人	広域農林生態系の気象環境学的評価
准教授	鈴木 紀之	昆虫の行動・進化・群集、生物多様性の生態学的な効果

森林科学主専攻領域

教授	大谷 慶人	きのこの生態と栽培、樹木精油の機能、木材・非木材パルプ・紙
特任シニアプロフェッサー	塚本 次郎	環境・生物多様性保全に配慮した森林管理技術、落葉分解系の空間分布パターン
准教授	市浦 英明	機能紙に関する研究、バイオマス産業廃棄物の再資源化に関する研究
准教授	市栄 智明	樹木の成長や繁殖、環境ストレス応答に関する研究
准教授	鈴木 保志	林道・架線、森林作業システム、木質バイオマスの収穫と利用
准教授	古川 泰	地方自治体の林業政策、林業労働問題、南アジア林業
講師	松本 美香	中山間地域における森林管理、林業林産業構造、集落構造

生産環境管理学主専攻領域

教授	河野 俊夫	食品偽装防止技術、食品への異物混入検出技術などの食品安全工学
教授	藤原 拓	地球温暖化を考慮した流域水環境管理に関する研究
教授	松本 伸介	農業水利施設の構造設計、建設材料の新規開発、音環境の調査
准教授	齋 幸治	地域水環境悪化の原因メカニズム解明と改善
准教授	佐藤 周之	流域水環境管理および流域社会基盤管理に向けた総合的な工学的研究
准教授	佐藤泰一郎	中山間地域の水・土・里環境保全、環境型傾斜地農業の推進
准教授	松岡 真如	衛星データやデジタル地図を活用した陸域環境の解析

農芸化学科

教授	菅内 誠	バイオベース新素材の開発と応用、環境先進型の微生物分子育種技術の確立
教授	岩崎 貢三	土壌—植物生態系、植物の物質吸収・蓄積機構、環境保全型農業
教授	枝重 圭祐	動物の生殖細胞の凍結保存技術の開発と耐凍性に関わる遺伝子の探索
教授	木場 章範	植物の発病・免疫機構の解明～病気に罹らない植物をつくろう!～
教授	金 哲史	昆虫行動を制御する化学因子・植物の生理活性物質に関する研究
教授	康 峪梅	土壌・水の有害金属汚染、草原退化の機構解明と対策
教授	田中 壮太	熱帯土壌学、土壌生態学、持続可能な農業
教授	永田 信治	食と健康と環境に役立つ有用微生物探索と産業利用
教授	曳地 康史	植物細菌・ウイルスと植物の相互作用の解明、植物病害防除技術開発
准教授	上野 大勢	高等植物の栄養生理に関する研究
准教授	柏木 丈弘	食品中の生体調節物質の探求、食品の香り成分の有効利用
准教授	島村 智子	食品成分に関する研究、食品の機能性の解明
准教授	村松 久司	産業用酵素の探索・機能解析・応用法の開発
講師	若松 泰介	新規有用たんぱく質の探索、機能解析・構造解析、そして応用

海洋資源科学科

海洋生物生産学コース

教授	足立真佐雄	赤潮有毒プランクトンの研究、プランクトンによるバイオ燃料生産
教授	池島 耕	沿岸の環境、水生生物の生態と保全に関する研究
教授	大嶋俊一郎	魚病原因微生物の診断・感染機構・防除法、養殖魚の生産に関する研究
教授	關 伸吾	魚介類の品種改良、野生集団の遺伝的保全に関する研究
教授	森岡 克司	養殖魚の品質、鮮度保持に関する研究、未利用資源の有効利用
教授	益本 俊郎	養殖魚飼料の栄養と消化吸収に関する研究魚が必要とする栄養素の働きを調べ、餌の開発に利用する研究
准教授	足立 亨介	海産無脊椎動物と深海動物を用いたバイオテクノロジー
准教授	中村 洋平	魚類生息場の機能解明、海産魚類の生態
准教授	深田 陽久	魚類の食欲・消化・成長に関する研究、ブランド養殖魚の開発
准教授	山口 晴生	海洋植物プランクトンに関する研究、内湾赤潮の解明
講師	今城 雅之	魚類の病原微生物(ウイルス、細菌、原虫、寄生虫)に関する研究

海底資源環境学コース

教授	上田 忠治	新規金属錯体の合成および酸化還元反応解析
教授	岡村 慶	海底鉱床探査のための現場型化学センサ開発
教授	村山 雅史	海洋の物質循環と海底資源形成に関する研究
教授	寄高 博行	海洋表層流の変動に関する研究
准教授	西尾 嘉朗	化学を用いた地球の謎(海底資源成因や地震火山機構等)の解明
准教授	野口 拓郎	海底熱水活動に伴う有用金属・有害金属の動態解明
助教	長谷川拓哉	機能性無機材料の開発と新機能付与

海洋生命科学コース

教授	久保田 賢	造礁サンゴなどの海洋生物のタンパク質や遺伝子に関する研究
教授	津田 正史	海洋微細藻からの有用物質の探索と開発、およびDNP-NMR研究
教授	長崎 慶三	海洋生態系におけるウイルスの役割と存在意義に関する研究
教授	深見 公雄	海洋微生物の生理・生態とその働きを利用した環境保全・修復
准教授	金野 大助	有機反応化学および量子化学計算による分子構造・反応解析
准教授	櫻井 哲也	藻類等の生命情報を網羅的に用いた比較解析によるゲノム研究
准教授	寺本 真紀	有益な物質の生産や環境浄化にむけた有益な微生物の探索・構築
准教授	難波 卓司	海洋生物が産生する化合物の薬理作用の探索と真核細胞の恒常性維持機構の解析
准教授	三浦 収	海産無脊椎動物の生態と進化の研究
准教授	山田 和彦	次世代型NMR装置の開発
助教	小野寺健一	海洋共生微細藻を大量に培養し未利用物質資源を探索する研究
助教	Dana Ulanova	海洋微生物の二次代謝産物生合成研究

高知大学農林海洋科学部・農学部

大学院総合人間自然科学研究科 農学専攻ニュース

大学院修士課程

高知大学総合人間自然科学研究科農学専攻が 新しくなります！

2016年度に農学部から組織改編された農林海洋科学部では第1期生が2019年度に卒業を迎えます。

第1期生が高知大学の大学院総合人間自然科学研究科へ進学する教育課程として、大学院修士課程の組織改編が現在進められています。2020年度の設置に向けて現在の農学専攻もこれまでの農学の分野に新たに海洋の分野を含めた修士課程の教育の場となる予定です。

高知県や高知県内他大学とともに施設園芸 農業を飛躍させます！

高知県が申請していた「地方大学・地域産業創生交付金」の交付対象事業「IoP (Internet of Plants)」が導くNext次世代型施設園芸農業への進化が採択され、高知大学は、参画機関として地域の中核的産業振興や専門人材育成を進めます。

タイトルにもあるようにテーマは農業(施設園芸農業)であり、農林海洋科学部のある物部キャンパスがこれから新たな研究の推進、教育の実践が計画されています。

高知県プロジェクト「IoP (Internet of Plants)」が導くNext次世代型施設園芸農業への進化

○施設園芸農業の飛躍的発展 (施設園芸生産性日本一を誇る高知県の施設園芸農業の地位を確固たるものとする)
⇒多様な園芸作物の生理・生育情報のAIによる可視化と利活用を実現するIoP (Internet of Plants) 等の最先端の研究
⇒全国に先駆けてクラウドの最先端技術を取り入れて普及を開始した「次世代型施設園芸システム」を「Next次世代型」として飛躍的に進化

○施設園芸関連産業群の創出・集積

【現在の取組 (次世代型)】 高収量・高品質
○温度、湿度、炭酸ガス濃度など
ハウス内環境を見える化 (ほぼ手動で制御)
H26から次世代型こち新施設園芸システム普及
次世代型ハウスの普及32.6ha(H27-H29)
環境制御技術は35%の農家に普及 (主要7産目)

【取組のさらなる進化 (Next次世代型)】 超高収量・高品質化 高付加価値化
○「ハウス内環境」+「生理・生育」の可視化
⇒レベルに応じた営農指導 ⇒ 統合制御(自動化)
○農家間の情報の一元化
⇒産地全体としてSuper西定(定時、定量、定品質、定価格)
○さらに収穫量・時期の予測、作業の効率化

【最先端の研究】
[1] 生産システム① 作物の生理・生育の可視化による生産の最適化
[2] 生産システム② 労働 (時期と技) の可視化による匠の技の伝承
[3] 省力化技術 生産や収穫作業の自動化、省力化技術の研究
[4] 高付加価値化 特定の機能成分等を強化した品種や栽培方法の開発、医学的検証
[5] 流通システム 出荷量・出荷時期等の予測システム開発
[6] 統合管理 システム全体の最適化
安全かつ高速のネットワークインフラの研究

【アグリフードビジネスを担う人材育成】
農業の担い手や企業の研究開発人材の育成・集積化
大学院取組とあわせてIoP連携プログラム (08/18) 社会人の学びの場の提供
「高知大学物部キャンパス」を拠点に、産学官が連携し、事業を推進
高知大学 × 高知工科大学 × 高知県 × 産業界・企業等

【IoP推進機構 (仮称)】
数組、出荷、流通までを見通した世界初の
IoPクラウドの構築・運用
情報の一元化
金戸で共有
営農支援
農家の困窮一歩先を支援
施設園芸農業に関する
施設園芸関連する機器・システムの開発

IoPクラウドの構築

○IoPクラウドにより、データに基づく農業へと転換 (いつでも、誰でもハウスの状況や生育状態に応じて活用可能)

最先端の様々な研究
産農家の協力 + 研究ハウスの実証
作物情報のビッグデータ
✓生理データ
✓生育データ
✓出荷データ
農作業のビッグデータ
✓農作業の時間、技
✓栽培管理履歴
環境情報のビッグデータ
✓気象データ
ハウス内環境データ

クラウド構築
IoTクラウド
データベース
AI
データを送信
クラウド運用 (データに基づく営農支援)

最適な栽培モデルと、実際の栽培データを比較し、診断 (正常・異常判定) し、改善提案

異常判定例
A ハウスの温度が低い ⇒ 温度(夜温)を14度まで上げる
B 湿度が高い ⇒ 病害予防のための換気を徹底する
C 着果から収穫までの期間が長くなる ⇒ CO2濃度を600ppmまで高める
D 日々の収穫量にバラつきがある ⇒ 花数、実の数を一定に保つ
E 収穫作業に時間がかかる ⇒ 症状から病害虫を特定する
F 営農者の作業と比較し改善提案

改善提案例
A 異常判定例 ⇒ 温度(夜温)を14度まで上げる
B 異常判定例 ⇒ 病害予防のための換気を徹底する
C 異常判定例 ⇒ CO2濃度を600ppmまで高める
D 異常判定例 ⇒ 花数、実の数を一定に保つ
E 異常判定例 ⇒ 症状から病害虫を特定する
F 異常判定例 ⇒ 営農者の作業と比較し改善提案

日々の栽培管理 (温度、湿度、CO2、水、肥料、肥料管理、日照) → 日々の収穫管理
7月 8月 9月 10月 → 翌7月

高知大だからこそその経験！

農林資源環境科学科
暖地農学主専攻領域1年生 高井 里枝

私が高知大学農林海洋科学部、農林資源環境科学科に入ろうと決意したのは、高校3年の10月頃だ。もともと、私は静岡大学のAO受験のため勉強をしていた。しかし、ご縁が無く、次はどうしようと悩んでいた。そこで、思い浮かんだのは、高校2年のとある講義だった。私の母校に、学部長の尾形先生が講義にいらしてくださり、果実の無核化についての講義を受けた。その講義に興味を持った事、そして、偶然にも11月3日に物部キャンパス一日公開があり、これに参加したことが、高知大学へ行くことを決意した大きな理由だ。

私は農業高校出身で、トマトの栽培・研究をしていた。将来も農業系の仕事に就きたいと考えていたため、高知大学の農林海洋科学部は私にぴったりだと思った。なぜ、たくさんある大学のうち、高知大学を選んだのかと言うと、FS実習があるからだ。多くの大学では、一年から専門的な体験は無く、一般教養がほとんどだと知った。しかし、高知大学は一年生から、農業だけでなく、海洋系、畜産、様々なことに触れ合うことができる素敵な所だった。また、高校のつながりで、高知には高糖度の徳谷トマトがあることを知り、少しでも学べるだろうと言う思いもあった。

実際FS実習に参加して、専門性のある深い所までは体験はできなくとも、楽しさを感じられる実習だった。森林実習では、山の奥の方まで入り、生物を観察したり、海洋系では、室戸の廃校水族館へ見学に行ったり、物部キャンパスに生息する植物を観察したり、田植え等多くのことを体験することができた。今まで、トマトについて研究する、という一方向しか考えていなかった私

にとって、FS実習は、視野を広げる体験となった。2年になれば、専門的なことを学ぶことができる。それが、今からとても楽しみだ。

話は変わって、現在私は「学生合同なぶら」と言うサークルに所属している。よさこいや、防災等様々な活動を行っている。恥ずかしいことに、高知大学に来てから、よさこいと言うものを知って、こんなに凄いものだとは知らなかった。一年の夏によさこいに参加して、とても楽しかった。防災関係では、東日本大震災を経験した仙台に行き、現地の人々のリアルな話を聞き、さらに防災について考えるようになった。高知も南海トラフが来ることは、確実であり、自分の力となればいいなと感じている。

改めて、高知大学へ来たことは、心の底から良かったと感じている。サークルやFS実習などを通し、新しい親友もできた。今、私は、大学生活を最高に楽しく過ごしていると、だれよりも自慢できる。



最後の学生生活

海洋資源科学科
海洋生物生産学コース1年生 蜂須賀 友里

高知に来てから1年が過ぎようとしているこれまでに、私はたくさんのお会いをした。大学に入学するまでは、知り合いのまったくいない地へ飛

び込むことに大きな不安が募っていたが、今では驚くほどに充実していて楽しいものである。そう感じる大きな要因は寮での暮らしにあると考える。高知大学かつら寮には、様々な学部、学年にまたがった約50名が集まり共に暮らしている。寮での生活は、寮生との関わりを避けても避けられない。その分、色んな人と関わることで、たくさんの出会いを経験できる場所である。

実際に、私が女子バスケットボール部に入部を考えたのも寮に住むバスケ部の先輩に色々相談できたことが大きかった。そうして、バスケ部に入部してまた新しい出会いが広がった。大学でのバスケの環境は、高校までと全く違って、1から10まで教えてくれたり、叱ってくれる先生や先輩もいない、一人の大人として扱われる環境であった。もう学生気分で過ごすのではないことを感じた。また、社会人や年上の方と関わるが増え社会に出たときの気配りや気遣いの多くを学んだ。大学は、社会人になるための最後の学生生活の場である。

寮では、同じ学部や他学部の1回生と仲良くなった。部活やバイトから帰ると、寮には必ず誰かがいて、話したり、笑ったりすることで疲れも吹っ飛ぶくらいの癒しの場であった。また、かつら寮には多くの学生だけでなく、寮母さんや調理師さんがいて、本当に自分たちのことをいつもよく見ている。私がしんどい時や疲れている時には、いつも見破られ、声をかけてくださり、話を聞いてもらったりして何度も心が軽くなった。寮にしていると、自分が一人ではないと感ずることができる。

たくさんの寮生と色んな話をし、私が一番印象に残っている出来事は、寮生つながりで地域協同学部の研究活動に参加させていただいて蕎麦狩りを行ったことである。そこでは、農林海洋科学部の実習の一環での田植え作業などとは違ったことを体験できた。それは、大学では出会

うことのできない地域の方と関わるのが大きく違っていたからである。実際に蕎麦を育てている地域の方と色々な話をしながら農作業をすることがとても楽しかった。

このように寮での出会いは私に普段できない事を経験させてくれる。そして、自分がこれから向かうことへの視野をも広げてくれるように感じる。私はこれからも新たな出会いを求め、最後の学生生活でしたいことを全部したい。

僕と物部と、ときどき昆虫

農林資源環境科学科
自然環境学主専攻領域2年生 松本 光太郎

僕は大学受験でミスを犯してしまい、正直に告白すると全く志望もしていなかったこの大学のこの学部に来てきた。しかも、高校の時は文系のコースに属していたのに、である。農林海洋科学部、世間のイメージで言えば農学部、というのは一般的には理系の分野であることが多い。つまり、僕は自分の適正も鑑みることなく、未知の世界への冒険を大学受験という人生の非常に大きな分岐点で行ってしまったのだ。

結果から言えば、意外と悪くない。というのが正直なところである。僕は文系という身ではあったが数学的な問題は別に嫌いではなかったし、理科系の科目は苦手ではあったが嫌いではなかったからである。みんながみんなこうではないとはわかっているが、意外にも農学というのは門が広く、経営や教育といった普通は文系の関わるような学問にも、農学は濃密に関わっているのだ。

しかし試練はあった。僕が高校で習ってきた理科科目は全て「基礎」のついたものであったので、高校の時習わなかったことや見たことも聞

いたこともないようなことを当然のように講義やテストで扱われるのにはとても参ってしまっている。しかし大学生というものは時間をとてもとても持て余しているもので、いざ勉強してみると案外なんとかなったりすることもあった。

僕が所属している自然環境学領域も、とても学問としての領域は広く、ものすごくかいつまんで言うと森林や田んぼなど、それらを取り巻く生物たち…例えば虫たちなどについて考える学問である。個人的には虫のイメージが強い。虫と聞くとやはり苦手な人も多いのではないと思う。しかし彼らが持つあの姿も、彼らなりの理由、それも驚くほど合理的な理由があったりするのである。逆に虫たちからしたら「なぜ人間は足が4本しかついてないんだろう、どうして身に布をまとっているのだろう!非合理的だなあ?」などと不思議がられているかもしれない。少し話が脱線したが、つまるところ何かこういうものだ、と断定するのが難しいほど広義的な学問なのである、と考えている。

僕は大した夢やビジョンもなくこの大学にやってきたが、今の生活を非常に楽しんでいる。この文を読んでくれた君が、少しでもこの学科やコースに興味を持ってくれて、いつか僕と同じように大学生活を楽しいと感じてくれたなら、とても嬉しく思う。

物部キャンパスで会えるのを楽しみに待っています。

大学生活は自由だ

土佐さきがけプログラム

生命・環境人材育成コース2年生 白髪 真歩

高知大学に入学して早2年が過ぎようとしています。約2年間の学生生活を通して感じたことは、

「大学生活は自由だ」ということです。

大学生活の特徴として、中学校や高校までとは違い、自由な時間が多いということが挙げられます。私は1回生の間はこの時間を好きなことに使いたいと考えました。そこで大学入学まで吹奏楽部に所属していましたが、大学では少し違うことに取り組みたいと交響楽団に所属して活動しました。中高生の時に所属していた吹奏楽部と違って少人数ではありましたが、様々な曲に取り組んで充実した時間を過ごすことが出来ました。

2年生になってからは空いた時間で図書館に籠って勉強することが増えました。文系から進学した私にとって専門科目は難しく、しかし必修科目が多いため落とすわけにはいかないとプレッシャーでした。授業後のみならず、時には学生実験が終わった後の日没後まで図書館で勉強する日々が続きました。もしかしたら大学受験と同じくらい勉強したかもしれません。わからないところは授業担当の先生の研究室で先生や先輩方から教えていただいたこともあります。難しいから、わからないからと言って諦めずに取り組んだことは、成長の糧になったのではないかと思います。

このように、自由な時間は私たちを成長させてくれます。人にもよるとおもいますが、夏休みや春休みが2か月ずつあるなど、まとまった自由な時間が確保できるのは大学生の特権です。ですから部活動やサークル活動、アルバイト、授業以外の勉強などにこつこつ取り組むことはもちろん、まとまった時間を利用して留学や旅行に行くこともできます。

ただし、自由を謳歌できるのは周囲の方々の支えがあってこそだということを忘れてはいけません。4人きょうだいで育った私は、親元を離れて家族のありがたみを再認識しました。大学生活という機会を与えてくれた両親には感謝してもきれません。高知大学の先生方は学生の意思を尊

重してくださる先生ばかりですし、職員の方々も様々な面から私たちを支援してくださいます。

もちろん自由には責任が伴います。自由だからと言って何をしたいわけではありませんし、学生として学業には取り組むのは当然のことです。そのうえで大学生活という貴重な時間を活用し、自分の成長につなげていければと思います。

新たなステージ

海洋資源科学科
海底資源環境学コース2年生 中村 雄太郎

私は今、次々と押し寄せる波に出会っている。言い換えると、より高いレベルのステージに毎日のように直面している。具体的には少し話を戻して1年前、高知大学に入学という新たなステージに立ったことで5教科に縛られないより広い世界に出会った。さらにFS実習をはじめとする座学を超えたレベルで行われる講義、これらの講義などは物事を知るだけではなく体感することもできるという新鮮味あふれる体験が出来た。

しかし、2年生となり物部キャンパスという新たなステージに立ち、講義を受けるようになると、より広い……というより、より深い世界を体感することとなった。いわゆる共通教育が無くなったことで1年生の時に感じた広い世界というのは鳴りを潜めたが、代わりに他の学部学科の人やネットが決して知らず、載ってないような専門的で先端的な講義に出会い、今現役でその世界に生きている専門家の人たちから、そこでしか聞けないような話、講義を次々知ることになった。今まで進級や進学などで新しい未知のフィールドに立つことは何度もあったが、それは決まったタイミングで1つずつの出会いであった。一方、今、私は海に関する様々な今まで知りえなかった知

識を獲得していている。一つ一つが新鮮で未知のものであり、まだまだ予備知識が少ないため、新たなステージに立つまでは良いものの今までは情報の密度が全く違う難敵を前に苦戦を強いられている。これら新しいステージの難敵を本文最初では波と表現したが、今これらの波を1つずつ越えていくために講義を聞き、資料を参考にし、他の受講者と協力もしながら、1歩ずつ進んで、波を越えている。

この波をしっかりと越えて、本文章作成の約1年後に迫っている研究室配属や卒論といった日に見えて異次元のステージにしっかりと立つために、こんな所で立ち止まらず先に進み、3年生で現れる新たなステージに立つことを目標に毎日頑張っていきたいし、今のところ頑張れていると思っている。

最後に、本文のお題が「学生の近況」なのに文章がややずれていることをここまで書いて気が付いたので、最後にテコ入れを…本文製作時期は11月であり、いよいよ朝は10度台突入し、大学に行くのも大変になってきました。だが、先に書いた通り立ち止まらずに波を越えていかないといけないので、これからの寒さの波にも負けずに勉学に励みたいと思います。

大学生として2年半を終えて

農林資源環境科学科
森林科学主専攻領域3年生 長谷川 琴音

高知大学に入学し、早3年が過ぎようとしています。農林海洋科学部の楽しそうな実習の様子が描かれたパンフレットをみて、私もこんなことがやってみたい!と高知に来たところから大学生活が始まりました。入学当初は見知らぬ土地で生活することに不安でいっぱいでしたが、すぐに友達もでき、授業にも一人暮らしにも慣れました。

入学してすぐ、私は自分が興味をもったことはやってみたいという思いからヨット部に入部しました。中高文化部だった私にとって運動部の練習もスポーツ自体も新鮮でした。毎日いろいろな経験をし、技術を学びました。高知の冬の海の過酷さ、予想だにしないトラブルの対処には心が折れそうになることもありましたが、先輩や同期、後輩など周りの人と助け合い、練習は楽しく取り組みました。しかし、結局私は2年たたないうちに部活を辞めることを決めました。その時は自分の選択が本当によかったのかと日々考え悩みましたが、今思えば、辞めたからこそ考えることや分かることもありました。だから、それはそれでよかったと、最近は前向きにとらえていいのではないかとも思えます。

そんなことを考えながら、私はそれから今に至るまで特に何かひとつのことに夢中になっているというわけではありません。が、知らない土地を旅してみたり、サイクリングに行ってみたり、やってみたいと思うことを色々しています。森林科学領域に所属していることもあり、森林の専門的知識を学んだり、泊まりの技術実習や森林に関するボランティア、イベントに参加したりして、山の魅力にも存分に惹かれています。最近では、研究室も決まり、今はなぜか林業機械が気になっています。毎日の生活で興味をもつものは色々ありますが、次に何をやろうかと考えることに私は今とてもワクワクしながら日々生活しています。

大学生活の中で、自ら選択し、やってみる。本当にこれでいいのかと考えるほど、悩むこと、迷うことが多いとつくづく思います。それでも、どんな選択、経験をしてもしそこから得られるものがあることを知りました。またそれは、やりたいことができる環境があり、支えてくれる先生や友達、両親、周りの人がいるからこそだということも今になってすごくよくわかります。今後の残り

少ない大学生活、周りの人への感謝を忘れずに色々な経験ができたと思っています。

これが、私の大学生活

農芸化学科3年生 奥原 歩音

私の3年半の大学生活は、充実していました。

入学当初、小学生の頃から続けているバレーボールを大学でも部活として本気で頑張りたいと思っていて、部活に入りました。これが、私の大学生活を潤す大きな要因でした。

部活は、週に6~7回の練習と、週に2回のオフがあります。大学に入って専門的な勉強をしていく中で勉強時間の確保も必要となる中、学校と部活の両立は楽なものではありませんでした。また、生活費を補うためにバイトも必要な生活であったので、オフの日をバイトに費やし、体を休めたり、家でゆっくりしたりする時間が無く、あまり自由に遊ぶことはできませんでした。私の想像していた大学生活は、バイトでお金を稼いで旅行に行ったりご飯に行ったり、もっと自由に時間を使えると想像していました。もちろん、遊びだけでなくやりたい勉強ができるのが大学生活の良いところだと思っています。この忙しい部活に入ったおかげでバイトや自由な時間、兼部したかったサークルなど、いくつか犠牲にしてみました。しかし、それ以上に得た大切な時間があります。

大学で部活に入る人は本気でそれをやりたい人しかいないので、皆が真剣に取り組みます。皆それぞれ忙しい中で遅い時間まで部活で汗を流し、苦しい練習に耐えて大会に向けて頑張る日々は、かけがえのないものでした。こうして仲間と一つの目標に向かって頑張り、大会を終えたあとに飲むお酒はとてもおいしく感じます。部活で出会った仲間とは共に過ごす時間が長いので、時

に喧嘩もしましたが、すぐに私生活の何でもないことから進路のことまで相談や意見交換をすることができる仲になりました。監督には、部活ではもちろん、私生活でも多くのことを教えていただき、助けてもらいました。尊敬できるこの監督との出会いは、高知に来てよかったと思ったことの一つです。私にとっての大きな支えでした。素敵な仲間に出会い、皆の頑張る姿に励まされて色々なことを乗り越え、今の私がいます。

現在は、就職活動に向けたイベントへの参加とその交通費を補うためにバイトを優先し、また研究室に所属されたことによる実験に時間を費やしています。私の学生生活を潤してくれた部活には時間を見つけて行くようにし、汗を流すことが私の今の生活の息抜きにもなっています。部活を一所懸命頑張ってきた自信を胸に、この先社会人になる準備と、卒論に向けた準備を楽しんで過ごしたいと思います。



不安と焦り

海洋資源科学科
海洋生命科学コース3年生 豊川 春風

大学入学してから月日が流れを年々早く感じるようになり、あっという間に大学3回生になりま

した。高知で生活して3年目になると環境にもだぶ慣れ、楽しい日々を送っています。特に3回生の後期である現在はほとんど授業もないため、時間や課題に追われることなく、ゆとりのある時間を過ごしています。しかし気持ちの面では不安と焦りを感じるが増え、余裕がなくなりつつあります。

3回生の後期から研究室に所属し、卒業論文に向けて少しずつ準備を始めています。私は現在、高知県海洋深層水研究所にて、アワビについて研究をしている先輩のお手伝いをさせていただいています。調査補助や、研究の引継ぎ、また論文や文献を読み、アワビやその他関連事項についての知識を身に付けています。アワビについては今まで勉強したことがなかったので、初めて知ることばかりで面白さを感じるがたくさんあります。しかしその反面、卒業論文を書くにあたり、だんだんと不安が募ってきます。先輩に疑問に思ったことやわからないことを質問すると、すぐにその答えとそれに関連する情報、さらにどんな文献を読んだらいいかなどたくさんのことを教えてください。そんな先輩のもとで勉強していると、安心する一方で私は果たして1年後、先輩のようになれるのだろうか、研究を引き継いで自分の論文を完成させることができるのだろうかと不安に駆られます。

この不安な状況にさらに追い打ちをかけているのが就職活動です。私自身なかなかやりたいことを見つけることができず、秋口によく漠然とはありますが、やりたいことを見つけることができました。しかしそこからはきりの無い企業研究や業種研究、考えても見つからない自分の強み・自己PR、周囲と自分の活動量のギャップなど不安や焦りを感じることは多いです。少しでも不安を解消しようと、参加した就活セミナーですます不安になることも。内定をもらうまで

この不安や焦りを感じ続けることを考えると、気が減入ってしまいます。

就活セミナーにて、「不安を解消するには事前準備をするしかない。」という言葉がありました。時間に余裕がある今、事前準備をするには絶好の時期なので、後悔の無いよう気の済むまで準備に励みたいと思います。たまの息抜きにまだ訪れたことがない高知の観光をしながら。



アワビを飼育している筒型装置です。真ん中の装置にはアワビが一匹観察できます。



学生生活を振り返って

流域環境工学コース4年生 大友 里紗

私は18年間で過ごしてきた地元、愛知県を離れて高知大学農学部に入學しました。私には高知大学に来て良かったと感じていることが二つあります。それは流域環境工学コースでの学び、もう一つは多くの人との出会いです。

流域環境工学コースの講義は主に農業を営むために必要な用水路やダム、農地整備といった技術的な内容ですが、入學する前の私は作物を育てることへの憧れがあり、実際に体を動かすこともしたいと思っていました。しかし実際に流域コースの授業が本格的に始まると、物理に関連する座学の講義がとても多く戸惑いました。ただ、講義を受けていくうちに農業に対して今までになかった観点から学ぶ面白さに気がつきました。私は、母校を訪れた際に先生から「大学どう?」と聞かれ、すぐに「授業で学んでいることが楽しいです」と答えたほど学生の本業を楽しく学ぶことができました。

またもう一方の多くの人との出会いも非常に大きな学びとなりました。私は高知県へ来て、人生で初めて行ったことが沢山あります。いくつか挙げると、高知県伝統のよさこいへの参加、アルバイト、海外ボランティア、イベントの幹事です。私はいろんな経験をする事で多くの人との繋がりを持つことができました。入學してすぐ始めたアルバイトでできた友人たちとは4年生の今でも飲みに行きます。また、流域コースのイベントの幹事をしたことでの出会いは私の中で一番の成長となりました。なぜならコース全体のイベントである新入生歓迎会やスポーツ大会、追い出しコンパを同期と一緒に作り上げたため、同期と接する機会はもちろん、後輩や先輩、先生方との横だけでなく縦の繋がりも多く持つことができたため

です。私は沢山の繋がりを持つことで、多く人の考え方を学ぶことができました。また副産物として、人見知りであったり人前に立つととても緊張してしまったりする性格を少しだけ改善されました。今でもまだ緊張はしますが!(笑)

そんなこんなで、高知大学農学部で本当に濃い学生生活を過ごすことができました。私は勉強も遊びもアルバイトもイベントも、全て楽しく全力で向き合えたことをとても幸せに思っています。なんと言っても、講義して下さる先生方や学校を管理して下さる優しい学務の方々、頼りになる先輩、同期、友人、後輩に恵まれたということが本当に大きいです。沢山の皆さんに感謝しています。4年間ありがとうございました。

磨穿鉄硯

生命化学コース4年生 糞谷 啓仁

高知大学に入學し、早4年という月日が流れ、卒業が目の前まで迫ってきています。あつという間だった大学生活の4年間には、多くの貴重な経験や出会いがありました。思い返すと文章に書き写すことの出来ない程色々なことがあり、高知大学での思い出は、私の人生のかけがえのないものになると感じています。

大学に入學した頃は右も左も分からず、友人はできるだろうか、授業は楽しいだろうか、そんな心配ばかりしていました。さらに地元から遠く離れた高知県には知り合いが全くおらず、自分のことは全て自分でやらなければならないことに不安を抱いていました。しかし、すぐに生活に慣れ、友人もでき充実した大学生活をスタートすることが出来ました。学業は勿論のこと、アルバイトや趣味など大学入學以前よりも行動の幅が広がり、学生生活を謳歌しました。そして今では、

自分がやりたいこと（研究）を見つけ、やりたいことが出来る環境に身を置き日々を過ごしています。新しい環境に身を投じることは勇気のいることでしたが、高知大学で学べてよかったと心の底から思っています。

現在は、応用微生物学研究室に所属し、高知県工業技術センターと共同で清酒について研究を行っています。研究では、主に清酒の香気成分に関わる清酒酵母の薬剤変異による育種を行い、既存の酵母より良い酵母を探求しています。希望していた微生物の研究に従事し、日々興味・関心を持って実験を行っており、とても満足しています。

しかし、研究では、思い通りにいかないことも多く、頭を悩ませていた時期もありました。そこで大きな力になってくれたのは研究室の先輩や同僚、友人の存在でした。多くの方々に支えられて今の自分があります。思い返すと本当に恵まれた環境で日々を過ごして来たと感じています。関わってくれた全ての人に感謝することを忘れず、私も誰かの支えになればと思います。

卒業後は高知大学大学院に進学します。大学院では専門分野についてさらに知識を高めるとともに、専門分野を越えた課題にも柔軟に対処できる力を身に付けるための2年間にしたいと考えています。最終目標として、自分の研究で今までになかった新しい事実を発見し、論文の執筆、発表による発信を通して、成長していきたいと考えています。そして、何事にも臆せず挑戦する姿勢を常に持ち続け、社会に出ても恥じない自分になりたいと思います。

“国際的な人間”って？

国際支援学コース4年生 後藤 啓太

右隣の席のベトナム君は大声で母親と電話をしながらパソコンをカチカチし、向かいのインドネシアさんは少し前からお祈りで席にいない。左のマレーシアさんはカラフルで不気味なクッキーを分けてくれて、シンガポール君はあなたの倍の仕事を終えようとしています。

やや誇張したとはいえ、近い将来日本の職場はこんなふうになると思います。普通の人がこの職場に放り込まれると、耐えて耐えて耐えられなくなって辞めていくか、日本人グループを作ってガイコクジンたちへの不満をコソコソ言い合うでしょう。一方、“国際的な人間”なら、この状況を楽しく思い、彼らそれぞれに合った仕事を割り振り、ベトナム君の母親の意見も取り入れて、見事にチームとして良い結果を出すのです。つまり、国際的な人間とは、単に英語でコミュニケーションが取れるだけではなく、他人の個性や価値観を受け入れようとする人間だということです。

どうしたらそのような人間になれるのか。国際的な人間であるかのように書いている私自身も、やはり街中で平気で肩をぶつけてくる中国の方を受け入れようとしておらず、その答えはハッキリしていません。しかしヒントになりそうな例がひとつ思い浮かびました。

私は海外で出会った人たちとSNSを交換するのですが、インドネシア人は毎日のように自分の決め顔を投稿します。最初は見てるこっちが恥ずかしいと感じていましたが、次第に羨ましさを感じるようになりました。自撮りをするということは、自分に自信があるということ、つまり自分を愛せているということです。これは日本人が本当はやりたくても、恥ずかしいから、馬鹿らしいからといってしようとしなないことだと思います。自

分を愛する方法を知っている彼らは、もちろん自分以外を愛する方法も知っています。だから誰にでも優しくできるし、他人の個性や価値観を疎ましく思わず、興味津々に目をキラキラさせながら話しかけてくれます。自己愛、これが“国際的な人間”のカギのひとつだと思うのです。

農林海洋科学部への改編に伴い、国際支援学コースは私たちの代でなくなることになりました。これは国際支援学が必要なくなったからではなく、すべての学生が共通して“国際的な人間”であるべきだという前提からだと思っています。私自身、また高知大学で学ぶ後輩たちが近い将来、国際的な日本を創りあげる先駆者となってくださるように。



僕の日線からの高知

総合人間自然科学研究科農学専攻1年生
LAI YI-CHUN

飛行機が龍馬空港へ近づき、高度が下がってくると夜の街の景色がはっきり見えるだろうと思い、窓から外を眺めてみました。予想外の真っ暗でした。

高知県へ来たばかりの頃、いろいろな手続きをするために先生が高知県のあちこちへ連れて行ってくれました。この町の様子がだんだん分かるようになりました。僕の専門は農学なので、まず最初にこの町について気づいたことは、農業用施設(温室、ハウスなど)がとにかく多いということでした。この理由について、「高知の冬は暖かくて日照量も多いから、これに基づいてハウスを利用して冬でも野菜が生産できるという戦略となっていますね!」と先生から教えてもらいました。

そして高知での生活に少しずつ慣れ、母国の台湾との違いもしっかりと実感しました。最も印象に残ったのは、高知が「陸の孤島」と呼ばれる名前です。高知は東西に長く、山々が北に迫っている特徴で、不便な交通により各地域の独特な文化が盛んです。僕は農学の中の果樹園芸学という分野が専門なので、この土地へ来てから高知の西部にある山に囲まれた三原村と四国山地の山奥にある大豊町に何回もフィールドワークの調査に行きました。同じ高知県でも、地域によって方言や文化が全然違うということを感じています。台湾は九州並みの広さなので、各県の差異はこんなに大きくないです。しかし、高知は日本の47都道府県の1つでありながら、台湾より豊かな文化を持っていると感じます。このような環境は、高知の一番魅力的なところだと思います。

高知に来る前、僕は高知でしか勉強できない・体験できない農業現場の見学や地域の方々との

交流ができることを楽しみにしていました。実際に、三原村でのユズ研究では、高知の特産果樹に触れることができ、栽培と加工について現場での勉強をすることもできました。さらに、調査や作業だけではなく、三原村の名物のどぶろくと農家民宿のおもてなしも存分に楽しみました。そして、高知の南西部にある三原村は古くから幡多地域の一部なので、地域の歴史や幡多弁での会話も地域の方々との交流で段々と理解できるようになっています。「地域から学ぶ」ということはきっと高知大学の戦略の1つでしょう。

四国山地の中央部にある大豊町は、農業生産の不利な「中山間地域」がほとんどです。農学部の学生団体MBは、八畝という棚田が有名な集落で耕作放棄地を活用し、日本一のシャクヤク園を目指して、地域限定焼酎を作るために地キビの栽培などを行っており、僕もこのサークルに参加しています。元気いっぱいな大学生と一緒に働いて、同じ夢を叶えるようために一生懸命頑張ることに、すごく感動しています。近いか遠い未来は何があるかわかりませんが、目の前にある自分たちの力でできることをやりながら成長するからこそ大学生です。「地域に貢献する」ということも高知大の戦略の1つでしょう。

まだまだ高知に来て半年ですが、これからの生活を楽しみにしています。



シャクヤクの収穫を楽しんでいる学生団体MB春の一枚

私とハチと学会と

～研究は繋がりが大事～

総合人間自然科学研究科農学専攻1年生
西山 泰裕

突然ですが、皆さんはオオフトオビドロバチやコクロアナバチというハチを知っていますか。恐らく、一般人の95%以上は名前を聞いた事がないと思います。このハチは竹筒などの人間の指が入るくらいの穴の中に巣をつくる習性があるため、「竹筒バチ」や「管住性ハチ類」とも呼ばれています。そんな一般人のほとんどが知らない竹筒バチに私は魅了され、これを卒業論文のテーマとし、大学院に進学する意思を固めました。

私のハチの研究では様々な昆虫が関わってくるのが魅力の1つです。例に挙げると竹筒バチをはじめとし、ガの幼虫、クモ、寄生者（ハチ、ハエ、甲虫）などがあります。そのため、ハチの勉強だけでなく他の昆虫の事も勉強する必要があります。これらを勉強するのに学部頃は書物や論文などを用いていました。しかし、大学院に進学してからは学会に参加し研究の勉強をすることができるようになりました。

学会では様々な昆虫の専門家が見に来られます。やはり、長年の経験や勘などがあるのでしょうか。多少専門外でも的確なアドバイスをもらえます。もちろん、アドバイスだけでなく鋭い質問もされます。しかし、こういった事をメモして研究に取り入れていく内に、竹筒バチの世界へ一歩、また一歩と前進していくのを感じました。けれども、学会とは本来は発表者が聴者に説明する側なので、一方的に教えてもらうだけでなく、私の研究で相手が欲しい情報や知識を渡す場合もあります。このように学会では私も1人の研究者として扱われます。

参加した学会の中で一番印象に残っているの

は国際膜翅目学会です。今年度は運よく愛媛県で開催されると聞いたので、アルバイトとして参加しました。この学会での一番の成果は、海外のハチの研究を聞いたことよりも日本のハチ研究者に顔を覚えてもらえたことです。おかげで、国際学会の後で行われた別の学会ではさらに私のポスターを見に来てくれる人が増えました。

学会に参加していくたびに、様々な大学の方と会話し名刺交換を行い、縁をつくる事ができました。学会で知り合った方の中には今でもメールのやり取りを行い、研究でわからない事があつたら質問をしたり、私が研究材料や情報の提供をすることもあります。学会は、研究のモチベーションアップや自身の研究の誇りを持つことに繋がります。今後、進学してくる院生たちには是非とも学会発表を勧めたいです。



人生における3つの坂

総合人間自然科学研究科農学専攻1年生
間口 洸樹

後援会だよりを書くにもネタがないため困り果てました。そこで参考にしようと去年の後援会だよりを見ると、みんなとても深いことを書いており、私もそのような文を書きたいと思いました。私の言葉だけでは不十分なため、私は偉人が残

した素晴らしい話を交えて私の大学生活を思い返しながら書こうと思います。

人生には3つの坂があります。人生で必ず通るであろう坂です。

1つ目は「上り坂」です。この坂は、人生が幸せな方向に進む坂です。上り坂は人生において一番あってほしい坂ですね。他愛もない話で盛り上がるができる友達ができた時、がんばって作った料理がおいしかった時、実験が成功した時など、小さいながらも、些細なことながらもいろいろなことが思いつきました。

2つ目は「下り坂」です。これは嫌な気持ちに向かっている坂です。この坂が続く時は永遠の様に感じてしまいますね。友達と喧嘩した時、実験が長い期間成功しない時、先生に叱られた時など、なかなか忘れられないものです。それでも前に進めるのは、寄り添って歩ける仲間がいたからなのでしょう。上り坂も下り坂も一緒に歩ける仲間がいると人生とても楽しくなりそうですね。

3つ目は「まさか(ま坂)」です。恐ろしいことに魔坂とも書くそうですね。上の2つの坂は予測ができます。しかしまさかだけは予測できません。私にもまさか!の経験があります。卒業論文の発表の一月前に食事であたって、胃腸炎になり入院してしまいました。卒論前なので気を付けていましたが、全く予測できませんでした。まさか!の気持ちでいっぱいでした。しかし、こんな時こそ冷静に対応することが大事だと救急車を呼ぶときに学びました。

ここまで3つの坂を紹介しましたが、どんな坂であっても、大切なのは坂道の歩き方です。どの坂道も、自分の信じたものを貫いて前向きに歩くことが大切だと思います。私が常日頃から自分の信念を貫き通せているかどうかは、第三者の目から見ないとわからないですが、自分の目の届く範囲では善処できていると思うし、これから

もそうしようと思っています。

これからの人生でどんなすごい上り坂や、しんどい下り坂、まさかがあるかはわかりませんが、残りの大学院生活、これからの人生を楽しく過ごしたいと思います。

「人とのつながり」と「指針」

総合人間自然科学研究科農学専攻2年生
金城 康平

現在私は、高知大学修士課程の2年次に在籍しています。私は、高知大学の学部3年次に、森林科学コースの編入生として入学しました。私の所属していたコースでは、夏休みなどの長期休暇中に3~10日ほどの必須の実習がありました。ここでは、人里離れた山の中で、同学年の仲間と衣食住をともにしながら生活しました。実習では、チームを組んで課題に取り組むことが多く、朝から晩まで仲間とともに課題に向き合いました。ときには、お酒を飲みながら夜遅くまで仲間と語り合ったのも良い思い出です。

修士課程に入ってから、学生だけでなく、先生方とより深く話す機会も増えてきました。自身の研究から将来の進路まで幅広く親身になって相談に乗っていただいたことは、現在の自分にとって大きな支えになっています。

大学生活を通して、私は、良き仲間や尊敬できる先生方に出会えました。このつながりは、自身にとってかけがえのない財産です。大学を修了し社会に出ても、人とのつながりを大切にしていきたいです。

私は、入学当時から、林学や森林科学分野に興味を持っていたため、森林科学コースでの講義はとても興味を持って取り組むことができました。講義では、日本の森林についての知識を幅

広く学ぶことができ、特に林学については、知識のみならず実地での実習を通して技術的な部分でも経験を積むことができました。

私は大学で、森と人との密接な関係や日本の森の現状・問題点などを学んでいく中で、日本の森に対する大きな不安感と危機感を覚えました。日本の森林は現在、林業従事者の不足や次代の森林育成が難しいなどの深刻な問題を抱えています。多くの方が想像するよりも遥かにひどい状況に置かれています。私達は、森からの多大な恩恵を受けながら生活していますが、自分の子供や孫の世代には、それもなくなっているかもしれません。私は、どのような形でも、森に携わり、そして、貢献できるような道を選んでいきたいです。それが、未来に生きる人の居場所になり、次世代の子を守ることがつながると信じています。私は、大学生生活を通して得た、未来への指針に向かって、これからも邁進していきます。

「今」の自分

総合人間自然科学研究科農学専攻2年生
棚谷 南海彦

大学に入学してから長いようで短くも早五年の月日が流れようとしています。そして、この一年の終わりは同時に学生生活の終わりを意味することになります。大学院に入学して就職先も決まった今になって、修士論文の執筆に追われながらふと五年前に自分の将来を漠然と考えていた高校生だった頃の自分の姿を思い出すことがあります。あのとき、特にやりたいことのなかった自分は「引きこもるより外に出る学部の方がいいなあ」と安易な思考で農学部に進学したことを覚えています。当時の僕はどこまでも楽観的で、農業を学べるならどこでもいいや、と生まれ

育った地元東京を離れそこから陸路で10時間もかかる志国(四国)高知に向かうことを決めたのでした。そんな自分を待ち受けていたのは、坂本龍馬とアンパンマンだけ…ではなく、想像を超えた雄大な自然や美味しい食べ物でした。ここ高知大学農学部におけるキャンパスライフは、誰しもが思い描くようなお洒落でキラキラした生活ではありませんでしたが、豊かな自然に囲まれ泥臭くなりながらも、のびのびと農業を学ばせてもらったことを誇りに思います。無事農学部に入學した自分は、もともと環境問題に興味があったのをきっかけに、人と自然、産業に関わる様々な問題の解決に取り組める流域環境工学コースに進学しました。そこから研究室分属となり、現在は大学院まで進学し、地盤防災学という災害から人を守る技術や知見を発掘するといった入学当初志望していた環境問題からは離れた研究に携わることとなります。就職活動においては大学院での経験を活かせばいいという思いから、災害関係に強い建設コンサルタントを志望し、無事志望通りの道に進むことができました。ここに至るまで実に紆余曲折した人生でしたが、ここまで優柔不断な自分を一切否定せずに認めてくれた両親や大学の先生方のおかげで「今」の自分があるのだなと強く実感しています。「未来」の自分についてはまだまだ想像もできませんが、「今」の自分の選択が正しかったんだと証明できるような一人前の技術者になるべく精進していけたらと思います。残り少ない学生生活ですが、勉学においてもそれ以外においても悔いが残らないよう全力で取り組みたいと思います。

高知大学・大学院での 6年間を振り返って

総合人間自然科学研究科農学専攻2年生
橋本 佳奈

私が高知大学に入学してからあと4ヶ月程で6年という月日が経とうとしていますが、大学1年の頃の出来事を昨日のこのように感じ、この6年間はあっという間であったように思います。私が高知大学を選んだ理由として、地元の大学であったことと自分の好きな魚について学べることを魅力に感じたからです。しかし、現在所属している研究室の先生の授業を受け、海の環境について興味を持ったことがきっかけで、当初予定していた魚とは少しかけ離れた生物を研究対象としている水族環境学研究室への分属を決めました。

分属してから現在に至るまでの約3年間、下痢性貝毒という食中毒の原因毒を生産するプランクトンが、どのような環境条件下で培養すればより増殖するのか、より毒を生産するのか研究してきました。研究を始めた当初は知識がないこともあり、面白みを感じる事が出来ませんでした。論文を読み、研究を続けるうちに知識を蓄え、研究の面白さに気付くとともに、自分がやった分だけ結果が得られることにやりがいを感じるようになりました。また、研究室というと固いイメージがあったのですが、水族環境学研究室では年に数回高知県の大月でサンプリングを行っています。早起きして、サンプリングをして、夜遅くまで試料処理をして、ととても疲れる研究室のイベントですが、現場環境について漁師の方にお話を聞くこともでき、さらに休憩時には釣りをすることが出来るので、勉強と息抜きにもなっています。

大学院に進学してからは、学部生時とは異なることが経験できました。その1つがTAや研

究室での後輩の指導です。“自分が理解している事を人に理解してもらう”というのは難しく、私の意図が伝わっていないことが時折ありました。そのため、どうすれば解ってもらえるのか考えながら話すよう心がけるようにしました。2つ目は英語論文の作成です。学部生時から現在に至るまでに得られた研究結果をまとめ、それを英語で表現することは容易ではありませんが、既報の論文や先生のお力をお借りして、なんとか形になりつつあります。

大学院への進学に対して不安を抱えていたが、研究を続けることに興味をもっていたという理由から進学し、現在でも私は難しいことでも進んで行うようにしています。残り4ヶ月はこれまでの月日を考えるととても短いものですが、充実した日々を送り、悔いのないよう過ごしていこうと思います。



就職等進路状況資料

学部

平成25年度～平成29年度農学部卒業生進路状況(各年5月1日現在)

学部	卒業年度	2013(平成25)年度卒業 2014年3月卒業			2014(平成26)年度卒業 2015年3月卒業			2015(平成27)年度卒業 2016年3月卒業			2016(平成28)年度卒業 2017年3月卒業			2017(平成29)年度卒業 2018年3月卒業				
		区	分	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女			
農	卒業者数			174	89	85	173	89	84	169	84	85	168	96	72	169	88	81
	就職希望者			119	55	64	113	52	61	121	59	62	128	68	60	115	63	52
学	企業等			92	43	49	95	39	56	95	44	51	104	56	48	84	45	39
	公務員			17	10	7	7	4	3	18	9	9	14	6	8	24	13	11
部	教員			3	0	3	2	2	0	1	0	1	1	0	1	3	2	1
	内訳			112	53	59	104	45	59	114	53	61	119	62	57	111	60	51
	就職率			94.12%	96.36%	92.19%	92.04%	86.54%	96.72%	94.21%	89.83%	98.39%	92.97%	91.18%	95.00%	96.52%	95.24%	98.08%
	進学者			43	28	15	50	30	20	44	23	21	33	24	9	48	21	27
	その他			19	8	11	10	7	3	4	2	2	7	4	3	4	3	1

(注)①就職率は、就職希望者と就職者の比率を示す。②秋季卒業生・早期卒業生を含む。③教員には臨時教員も含む。

高知大学 平成25年度～平成29年度 農学部卒業生主な進路先一覧

平成25年度(平成26年3月)卒業	平成26年度(平成27年3月)卒業			平成27年度(平成28年3月)卒業			平成28年度(平成29年3月)卒業			平成29年度(平成30年3月)卒業		
	業種	企業名等	業種	企業名等	業種	企業名等	業種	企業名等	業種	企業名等	業種	企業名等
公務員	県庁(高知・愛媛・熊本・京都)	高知県庁	公務員	高知県庁	公務員	高知県庁、徳島県庁、鳥取県庁	公務員	県庁(高知、鳥取、愛知)	公務員	県庁(高知、愛媛、徳島、香川、岡山、島根、大分)	公務員	県庁(高知、愛媛、徳島、香川、岡山、島根、大分)
公務員	市町村役場(香南市・香美市)	高知市役所、南国市役所	公務員	高知市役所、南国市役所	公務員	高知市役所、高松市役所、松山市役所	公務員	岡山県警察	公務員	高知市役所、高知市役所、高松市役所、高松市役所、高松市役所、高松市役所	公務員	高知市役所、高知市役所、高松市役所、高松市役所、高松市役所、高松市役所
公務員	警察(大阪・広島・鳥取)	大阪府和泉市教員	教育・学習支援	愛知県立教員	公務員	愛知県立教員	公務員	高松高等裁判所	公務員	高松高等裁判所	公務員	高松高等裁判所
公務員	農林水産省中四国農政局	株式会社太田花き	卸売・小売業	株式会社ジジージャパン	農業	有限会社川刈牧場	教員	公立中学校	教員	愛知県立私立高校教員	教員	愛知県立私立高校教員
公務員	海上保安庁、陸上自衛隊	株式会社ジジージャパン	卸売・小売業	株式会社えがお	林業	丸和林业株式会社	製造業	株式会社東ハト	製造業	院庄林業株式会社	製造業	院庄林業株式会社
教員	公立中学校	株式会社えがお	製造業	株式会社えがお	建設業	株式会社サンテック	製造業	株式会社大塚製菓工場	建設業	株式会社興村組	建設業	株式会社興村組
教員	公立高等学校	株式会社オイス	製造業	株式会社オイス	製造業	株式会社サタケ	製造業	大明化学工業株式会社	製造業	ニッポン高度紙工業株式会社	製造業	ニッポン高度紙工業株式会社
卸売・小売業	大信産業株式会社	ひまわり乳業株式会社	製造業	株式会社オイス	製造業	山崎製パン株式会社	製造業	ホルト株式会社	製造業	クミアイ化学工業株式会社	製造業	クミアイ化学工業株式会社
製造業	関西エクス線株式会社	ハタダ株式会社	製造業	株式会社あけし	情報通信業	山崎システムズ株式会社	卸売・小売業	株式会社そごう・西武	情報通信業	株式会社システムリサーチ	情報通信業	株式会社システムリサーチ
製造業	兼松エンジニアリング株式会社	株式会社あけし	製造業	株式会社あけし	卸売・小売業	関洋株式会社	情報通信業	日立システムズ	情報通信業	株式会社ユーコム	情報通信業	株式会社ユーコム
製造業	兼松エンジニアリング株式会社	株式会社あけし	金融・保険業	株式会社あけし	卸売・小売業	大信産業株式会社	金融・保険業	株式会社高知銀行	運輸業	日本航空株式会社	運輸業	日本航空株式会社
運輸業	兼松エンジニアリング株式会社	株式会社あけし	情報通信業	株式会社あけし	金融・保険業	大信産業株式会社	建設業	株式会社高知銀行	卸売・小売業	株式会社日本アークセ	卸売・小売業	株式会社日本アークセ
情報通信業	四国旅客鉄道株式会社	アルファテックソリューションズ	情報通信業	株式会社あけし	金融・保険業	大信産業株式会社	建設業	株式会社高知銀行	金融・保険業	株式会社四国銀行	金融・保険業	株式会社四国銀行
情報通信業	NTTマーケティング	東亜建設工業株式会社	建設業	株式会社あけし	医療・福祉	徳島赤十字病院	運輸業	株式会社高知銀行	医療・福祉	近畿健康管理センター	医療・福祉	近畿健康管理センター
情報通信業	(株)高知通信	有限会社竹内園芸	農業	株式会社あけし	複合サービス事業	馬路村農業協同組合	複合サービス事業	株式会社高知銀行	複合サービス事業	JA全農高知	複合サービス事業	JA全農高知
複合サービス事業	高知市農業協同組合	高知市農業協同組合	複合サービス事業	高知市農業協同組合	複合サービス事業	高知市農業協同組合	複合サービス事業	高知市農業協同組合	複合サービス事業	JA全農高知	複合サービス事業	JA全農高知

学部 平成29年度 農学部卒業生就職等進路状況(平成30年5月1日現在)

学 科 コ ー ス 名	卒業生		就職希望者		就職者内訳				☆ 就職率 (%)	就職未定者内訳		進学等 大学院 専攻科	就職を希望しない学生		昨年の 就職率 (%)				
	県内		県外		県内		県外			企業等	公務員		教員	企業等		公務員	再受検	不明	
	計	男	計	女	企業等	公務員	教員	企業等											公務員
暖地農学 コース	34	3	31	5	26	30	4	1	3	0	26	21	5	0	96.77	1	0	0	96.55
男	12	1	11	2	9	10	1	1	1	1	9	7	2	0	90.91	1	1	0	100.00
女	22	2	20	3	17	20	3	0	2	0	17	14	3	0	100.00	0	0	0	92.86
海洋生物 生産学 コース	27	3	24	12	0	12	9	0	0	0	12	9	3	0	100.00	0	0	0	100.00
男	17	2	15	9	0	9	0	0	0	0	9	7	2	0	100.00	0	0	0	100.00
女	10	1	9	3	0	3	0	0	0	0	3	2	1	0	100.00	0	0	0	100.00
食料科学 コース	22	2	20	10	0	10	9	0	0	0	9	7	1	1	90.00	1	0	0	90.91
男	9	1	8	5	0	5	4	0	0	0	4	3	1	0	80.00	1	0	0	88.89
女	13	1	12	5	0	5	5	0	0	0	5	4	1	0	100.00	0	0	0	92.31
生命化学 コース	20	4	16	12	2	10	2	0	0	0	10	9	1	0	100.00	0	0	0	94.12
男	8	0	8	3	0	3	0	0	0	0	3	3	0	0	100.00	0	0	0	100.00
女	12	4	8	2	7	9	2	2	0	0	7	6	1	0	100.00	0	0	0	100.00
自然環境学 コース	15	3	12	12	2	10	12	2	1	0	10	8	1	1	100.00	0	0	0	88.89
男	10	2	8	8	2	6	8	2	1	1	6	6	0	0	100.00	0	0	0	83.33
女	5	1	4	4	0	4	0	0	0	0	4	2	1	0	100.00	0	0	0	100.00
流域理工学 コース	17	3	14	17	3	14	16	3	1	1	13	8	5	0	94.12	1	0	0	100.00
男	16	3	13	16	3	15	3	1	1	1	12	8	4	0	93.75	1	0	0	100.00
女	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	100.00	0	0	0	100.00
森林科学 コース	20	4	16	13	1	12	12	1	0	0	11	9	2	0	92.31	1	0	0	81.82
男	12	2	10	8	1	7	8	1	1	0	7	6	1	0	100.00	0	0	0	66.67
女	8	2	6	5	0	4	0	0	0	0	4	3	1	0	80.00	1	0	0	92.31
国際支那学 コース	14	1	13	8	2	6	8	2	0	0	6	6	0	0	100.00	0	0	0	100.00
男	4	0	4	3	0	3	0	0	0	0	3	3	0	0	100.00	0	0	0	100.00
女	10	1	9	5	2	3	5	2	2	0	3	3	0	0	100.00	0	0	0	100.00
合計	169	23	146	115	15	100	111	14	7	6	1	97	77	18	96.52	4	0	0	92.97
男	88	11	77	63	8	55	60	7	2	4	1	53	43	9	95.24	3	0	0	91.18
女	81	12	69	52	7	45	51	7	5	2	0	44	34	9	98.08	1	0	0	95.00

※ 本表は平成30年3月の学部卒業生の就職状況である。

(秋季卒業生・早期卒業生を含む)(就職者に期限付き採用者を含む)(教員には、専門学校教員・大学教員を含む)(国立大学・公立大学・私立大学・国立病院機構は法人化されているので企業等に算入)

☆ 就職率=就職者÷就職希望者 就職未定者とは、就職希望者の内、就職が確定していない者をいう。

大学院 平成29年度 総合人間自然科学研究科農学専攻(修士課程)修了者就職等進路状況(平成30年5月1日現在)

専 攻	修了者		就職希望者		就職者内訳				☆ 就職率 (%)	就職未定者内訳		進学等 大学院 専攻科	就職を希望しない学生		昨年の 就職率 (%)				
	県内		県外		県内		県外			企業等	公務員		教員	企業等		公務員	再受検	不明	
	計	男	計	女	企業等	公務員	教員	企業等											公務員
計	37	31	6	28	2	26	28	2	1	0	26	22	3	1	100.00	0	0	0	82.93
農学専攻	23	19	4	17	2	15	17	2	1	0	15	13	2	0	100.00	0	0	0	84.62
男	14	12	2	11	0	11	11	0	0	0	11	9	1	0	100.00	0	0	0	80.00

※ 本表は平成30年3月の大学院修了者の就職状況表である。

(秋季卒業生・早期卒業生を含む)(就職者に期限付き採用者を含む)(教員には、専門学校教員・大学教員を含む)(国立大学・公立大学・私立大学・国立病院機構は法人化されているので企業等に算入)

☆ 就職率=就職者÷就職希望者 就職未定者とは、就職希望者の内、就職が確定していない者をいう。

平成30年度後援会総会について

後援会総会は、平成30年4月3日(火)入学式に出席された保護者の皆様にご出席いただき、高知県民文化ホールグリーンホールで開催しました。

本総会では、平成30年度事業計画・予算案、平成29年度事業報告・決算報告が承認され、次のとおり平成30年度役員が選出されました。

平成30年度農林海洋科学部・農学部後援会役員名簿

	役職名	氏名	学生の学科・コース等	学年
①	会長	佐野 健一	農学部／海洋生物生産学コース	4
②	副会長	武政 久志	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	2
③	副会長	秋澤 成高	農学部／海洋生物生産学コース	4
④	会計	小島 一郎	農学部／森林科学コース	4
⑤	監事	森田 研一	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	2
⑥	監事	中山 泰志	農学部／流域環境工学コース	4
⑦	理事	谷井 道生	大学院農学専攻	2
⑧	理事	福永小百合	農学部／暖地農学コース	4
⑨	理事	濱田 和彦	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	3
⑩	理事	澤田 伸夫	農林海洋科学部／農芸化学科	3
⑪	理事	池田 ユカ	農林海洋科学部／海洋資源科学科海洋生物生産学	3
⑫	理事	濱田 典明	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	3
⑬	理事	吉田 君	農林海洋科学部／農芸化学科	2
⑭	理事	藤本 智美	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	1
⑮	理事	森下 祥朋	農林海洋科学部／農芸化学科	1
⑯	理事	松吉美佐子	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	1
⑰	理事	中川 秀樹	農林海洋科学部／農林資源環境科学科	1

平成30年度 予算書

1. 収入の部

科 目	金 額	内 容
繰越金	3,190,984	前年度からの繰越
会費	4,500,000	学部@30,000×140人=4,200,000 大学院@15,000×20人=300,000
雑収入	47	預金利息(H29年度実績)
計	7,691,031	

2. 支出の部

科 目	金 額	内 容
就職斡旋旅費等 助成金	2,000,000	新入生の物部開講授業への補助、学生の就職活動に関するガイダンス・講演会の開催、就職関係図書(会社四季報、週刊東洋経済等)購入、大学行事(オープンキャンパス、大学祭、物部キャンパス1日公開、物部フォーラム等)への援助、総会・役員会等会議費、学部の管理運営への補助、学生表彰、その他
課外活動助成費	500,000	課外活動用品購入・修理、よさこい踊り参加補助、学生と学部長等との意見交換
事務経費	300,000	用紙類、文具類、通信費、印刷費等
卒業記念品費	400,000	卒業記念写真、証書入れファイル、手提袋等
卒業生送別費	1,100,000	卒業・修了歓迎祝賀会
後援会だより	700,000	印刷費等
予備費	2,691,031	保護者会、その他学生支援経費等
計	7,691,031	

平成29年度 決算書

1. 収入の部

科 目	当初予算額	決 算 額	差 額	備 考
繰 越 金	1,475,339	1,475,339	0	
会 費	4,356,000	5,055,000	699,000	
雑 収 入	70	47	-23	
計	5,831,409	6,530,386	698,977	

2. 支出の部

科 目	当初予算額	決 算 額	差 額	備 考 (主な支出・補助の項目等)
就職斡旋旅費等助成金	1,185,000	917,182	267,818	就職ガイダンス・就職セミナー 就職関係雑誌 新入生の物部開講授業支援 学生学部長表彰 大学祭(黒潮祭)活動資金支援 学部行事関係(オープンキャンパス、物部 キャンパス一日公開、ホームカミングデー) 後援会総会・役員会
課外活動助成費	500,000	183,000	317,000	よさこい参加学生補助、学生との懇談、 課外活動用品(運動用具)
事務経費	300,000	263,985	36,015	通信費(後援会だより・入会の案内発送、 役員会等案内)、印刷費(封筒他)
後援会だより	600,000	558,480	41,520	後援会だより印刷費等
卒業記念品費	400,000	328,880	71,120	卒業記念写真、証書入れファイル、手提袋
卒業生送別費	1,100,000	993,872	106,128	卒業生・修了生祝賀会
予備費	1,746,409	94,003	1,652,406	
計	5,831,409	3,339,402	2,492,007	

3. 繰越の部

$$\begin{array}{rcl}
 \text{(収入の部決算額合計)} & \text{(支出の部決算額合計)} & \text{(繰越金)} \\
 6,530,386\text{円} & - 3,339,402\text{円} & = 3,190,984\text{円}
 \end{array}$$

平成30年度 後援会の活動状況

○総会・役員会の開催

- 入学式・総会 平成30年 4月 3日 (火)
- 役員会第1回 平成30年 6月20日 (火)
- 第2回 平成31年3月開催予定

○新入生への支援

- 「大学基礎論」「学問基礎論」等物部開講時の支援

○第40号後援会だよりの発行

- 学生寄稿原稿を中心に作成し、全保護者への送付 (年1回)

○就職活動への支援

- 就職ガイダンス・就職セミナー補助
- 就職用図書購入 (会社四季報、週刊東洋経済等)
- その他就職活動のための経費

○学生活動への支援

- 日章寮よさこい踊り子隊支援
- 大学祭 (黒潮祭) 実行委員会への支援
- 学生と学部長等との懇談会
- 課外活動用品

○学部関係行事への支援

- 物部キャンパス一日公開、オープンキャンパス、ホームカミングデー
- 学生学部長表彰懇談会

○卒業生・修了生への支援

- 卒業生・修了生の歓送会
- 卒業記念写真、卒業証書ファイル他
- 秋季卒業生祝賀会

○保護者への情報発信

- 保護者会の開催 (保護者を対象に就職説明会を開催)
..... 平成30年11月 3日 (土・祝)

平成30年度 保護者会の報告

高知大学物部キャンパスにおいて 保護者会を開催しました

平成30年
11月3日(土)

保護者会は昨年度初めて開催され、好評をいただきましたので、本年度引き続き就職をテーマとして開催いたしました。

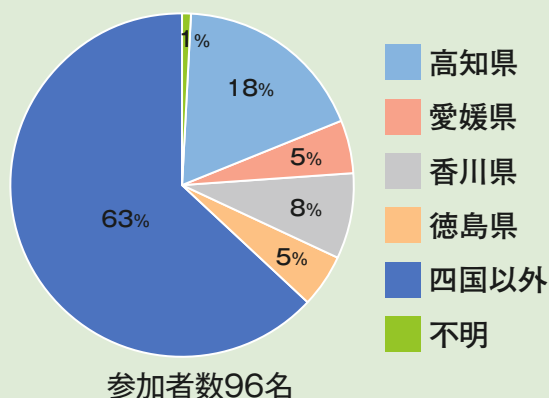
96名の保護者、ご家族の方にご参加いただき、高知大学教員からの就職全般に関する説明、卒業生3名からの体験談の発表がありました。

参加者アンケートの声

- 大学での学びから、就職活動、仕事の内容まで幅広く具体的でよくわかる内容でした。
- 今回のような保護者対象の説明会は、大変役に立ちます。ありがとうございました。



都道府県別保護者会参加割合



高知大学農林海洋科学部・農学部後援会主催

保護者会（就職説明会）

学生をとりまく就職状況等について、保護者の皆様に
情報を発信するために就職説明会を開催します

13:00 後援会長挨拶

13:05 農林海洋科学部長挨拶

13:10 農林海洋科学部における就職活動状況報告

金 哲史教授 農林海洋科学部学生支援委員会委員長

卒業生による講演

13:30 野村 里美氏 H28 年度農学部食料科学コース卒業

13:50 稲見 佑子氏 H28 年度大学院農学専攻修了

14:10 渡辺 靖崇氏 H26 年度大学院農学専攻修了

14:30 閉会



ご希望の方は、別室で開催している入試相談コーナー(9:00-15:00)で、教員と面談も可能です。

面談する教員は数名ですので、お子さんの指導教員ではない場合がありますことをご了承ください。面談希望の方は 1 号館 1 階東側に入試相談案内所がありますのでそちらで希望の学科等をお伝えください。

高知大学農林海洋科学部・農学部後援会規則

(目的)

第1条 本会は、高知大学農林海洋科学部・農学部（以下「学部」という。）の充実発展を期し、学部並びに高知大学大学院総合人間自然科学研究科農学専攻（以下「専攻」という。）の教育活動を助成することを目的とする。

(名称)

第2条 本会は、高知大学農林海洋科学部・農学部後援会と称す。

(事務所)

第3条 本会の事務所は、後援会長宅に置く。

(会員)

第4条 本会は、学部及び専攻学生（外国人留学生を除く。）の保護者で組織する。

(事業)

第5条 本会は、第1条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (ア)学部・専攻と保護者の緊密なる連絡
- (イ)学生の教養ならびに福祉に必要な援助
- (ウ)学生の就職斡旋に必要な援助
- (エ)その他学部・専攻の教育達成に必要な事業

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。
 会長 1名 副会長 2名 理事 若干名
 監事 2名 会計 1名

(役員を選出)

第7条 役員を選出は、次のとおりとする。
 (1)会長及び副会長は、理事の互選による。
 (2)理事・監事及び会計は、会員の中から選出する。

(役員の任期)

第8条 役員は、1か年とする。ただし留任を妨げない。
 2 補欠役員は、前任者の残任期間とする。

(役員の仕事)

第9条 会長は、会務を総理する。
 2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。
 3 理事は、会務を処理する。
 4 監事は、会務を監査する。
 5 会計は、会計事務を処理する。

(会務)

第10条 本会の会議は、総会と役員会とする。
 2 総会は、毎年1回学年始めに開く。ただし必要あるときは臨時総会を開くことができる。
 3 役員会は、必要に応じ会長が召集する。

(総会)

第11条 総会において行う事項は、次のとおりとする。
 (1)予算決算の承諾
 (2)会務の報告
 (3)役員を選出
 (4)規則の改正
 (5)その他必要な事項

(役員会)

第12条 役員会は、第5条にかかげる事項を審議し、これを執行する。
 2 重要事項で緊急を要する場合には、役員会の議決をもって総会に代えることができる。この場合、事後において総会の承認を受けなければならない。

(議決)

第13条 会議の議決は、出席会員の過半数の賛成をえなければならない。

(事務の処理)

第14条 本会の事務を処理するため、事務補佐1名を置き、会長が委嘱する。

(経費)

第15条 本会の経費は、会費をもって充てる。

(会費)

第16条 本会の会費は30,000円（ただし、専攻の場合は、15,000円）とし、子弟の入学時（転入学、転入学部を含む）に一括納付するものとする。ただし、転入学・転入学部については、次のとおりとする。
 2年生22,000円 3年生15,000円 4年生7,500円

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、4月1日に始まり、3月31日に終わる。

附則

本規則は、平成28年2月8日から施行し、平成28年度入学生から適用する。

附則

本規則は、昭和29年4月10日から施行する。

昭和30年4月11日一部改正
 昭和31年4月10日一部改正
 昭和33年4月11日一部改正
 昭和39年4月10日一部改正
 昭和43年4月18日一部改正
 昭和47年4月10日一部改正
 昭和49年4月10日一部改正
 昭和52年4月11日一部改正
 昭和55年4月10日一部改正
 昭和57年4月10日一部改正
 昭和59年4月10日一部改正
 平成 8年4月10日一部改正
 平成20年4月 3日一部改正
 平成28年2月 8日一部改正

平成30年度 学年暦

月 日	学年暦・行事
4月 3日(火)	入学式
4月 4日(水)	新入生オリエンテーション
4月 5日(木)	在来生オリエンテーション
4月 6日(金)~4月 9日(月)	在来生 第1学期 履修登録期間
4月 7日(土)~4月 9日(月)	新入生 第1学期 履修登録期間
4月 9日(月)	新入生定期健康診断
4月12日(木)	第1学期授業始
7月17日(火)	月曜日の授業
8月 1日(水)~8月 7日(火)	第1学期試験期間
8月 8日(水)~8月31日(金)	夏季休業
9月 1日(土)~9月30日(日)	特別授業期間
9月20日(木)	秋季修了式
9月21日(金)~9月26日(水)	第2学期 履修登録期間
10月 1日(月)	第2学期授業始, 創立記念日
10月10日(水)	秋季入学式
11月 5日(月)	休講(黒潮祭)
11月20日(火)	金曜日の授業
11月28日(水)	月曜日の授業
12月25日(火)	月曜日の授業
12月27日(木)~1月 6日(日)	冬季休業
1月18日(金)	休講(大学入試センター試験準備)
1月19日(土)~1月20日(日)	大学入試センター試験
1月23日(水)	金曜日の授業
1月31日(木)~2月 6日(水)	第2学期試験期間
2月 7日(木)~2月28日(木)	特別授業期間
3月 1日(金)~3月31日(日)	学年末休業
3月22日(金)	卒業式・修了式

物部キャンパス PHOTO ALBUM

Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University Monobe Campus

4
April



入学式



後援会総会受付

5
May



水防訓練

物部川河川敷で国土交通省、高知県、市町村などで実施。学生が参加しました。



救命講習

学生や教職員が参加

7
July



トレイルラン

高知大学農林海洋科学部嶺北フィールドの演習林で開催

8
August



よさこい祭り

高知のお祭り「よさこい」に学生が参加





9
September



秋修了式
大学院生の秋季修了式典

10
October



天皇后両陛下下行幸啓
両陛下の御在位最後の行幸啓で高知をご訪問。
高知大学にもお立ち寄りいただきお迎えをしました。

11
November



物部キャンパス一日公開
多くの学外の方がイベントを楽しみました。



後援会保護者会
物部キャンパス一日公開にあわせて実施しました。

3
March



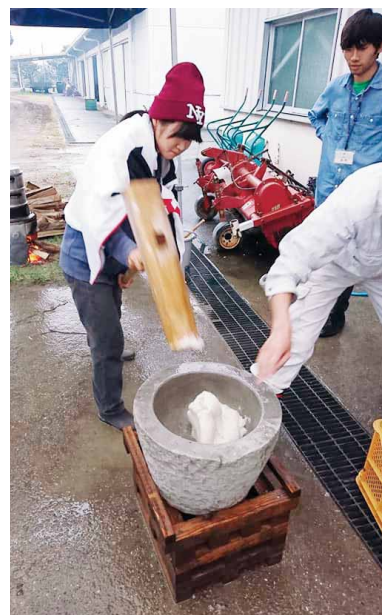
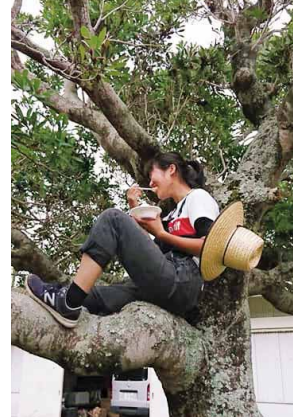
祝賀会
卒業・修了式後に後援会の支援で開催しました。



授業風景

「農場実習」では、物部キャンパス内にある附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター南国フィールドを、水田、菜園、加温施設、果樹園、牛舎、放牧地、庭園などを備えた大規模複合農園とみなし、実習生はそこで実際に行われている生産活動に部分的に参加しながら、農業生産に関わる基本的な生産技術や経営的視点を備えた生産理論を習得する授業を行っています。





高知大学 学歌

作詞：岡部剛機 作曲：町田育弥

1 風光る 山なみ深き
南国の 緑は千歳
いにしへの 歴史に学び
飛躍する 未来の蒼天に
ああ我ら
高き理想の 叡知と拓く
高知大学 栄えあれ

2 水光る 四万十川の
清かなる 流れの如く
清新の 夢育みて
究め合う 追取の精神
ああ我ら
高き理想の 叡知に集う
高知大学 望みあれ

3 波光る さかゆく土佐は
黒潮の 恵みに満ちて
永久に 生命を繋ぎ
向上の 渡津海進み
ああ我ら
高き理想の 叡知と磨く
高知大学 誇りあれ

♩=108

か ぜ ひ か ー る や ま な み と ふ か き な ん こ
み す み ひ か ー る さ か ゆ く と わ は さ や か し
く の な ん こ く の み ど り は ち と せ く
な る な さ や か な の る な が れ の こ み と ち て
い に し え の れ き し に ま な び ひ や く す る み ら い の そ ら に
せ い し ん の ゆ め は く み て き わ め あ う し ん し ゅ の こ こ ろ
と こ し え に い の ち を つ な ぎ こ う じ ょ う の わ た つ み す み
あ あ わ れ ら た か き ー り そ う の
た か き り そ う の え い ち を ひ ら ー く こ う
え い ち に つ ど ー う
え い ち を み が ー く
ち ー だ い が く さ の か そ こ え あ ー れ こ う
さ の ほ え あ ー れ
え あ ー れ
ち だ い が く さ の か え ー あ ー れ
ほ そ こ り ー あ ー れ

表紙の写真について

第2回高知大学フォトコンテスト大賞

農林海洋科学部1年生必修授業「フィールドサイエンス実習」の田植え光景



高知大学農林海洋科学部

Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University

物部キャンパス

Monobe Campus

- 1 農林海洋科学部1号館
- 2 農林海洋科学部2号館
- 3 農林海洋科学部3号館
- 4 農学部4号館
- 5 実験研究棟
- 6 厚生会館(非常勤講師宿泊施設)
- 7 学術情報図書館物部分館及び講義室棟
- 8 福利厚生会館(大学生協)
- 9 附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター
- 10 体育館
- 11 日章寮
- 12 留学生寄宿舍
- 13 国際交流会館
- 14 遺伝子実験施設
- 15 共同利用機器分析室棟
- 16 海洋コア総合研究センター
- 17 大学院総合人間自然科学研究科
黒潮圏総合科学専攻棟
- 18 運動場



9 附属暖地フィールドサイエンス
Education and Research Center for Subtropical Field Science

放牧場
Grazing Field

水田
Paddy Field

演習林苗畑
Practice Wood Seeding Field

18 運動場
Playground

正門 Main Gate

放牧場
Grazing Field

ガラス室
Glass room

17 大学院総合人間自然科学研究科
Graduate School of Integrated Arts and Sciences

ガラス室・温室
Glass room and Greenhouse

15 共同利用機器分析室棟
Observatory for Instrumental Analysis

2 農林海洋科学部2号館
Faculty of Agriculture and Marine Science Building 2

3 農林海洋科学部3号館
Faculty of Agriculture and Marine Science Building 3

5 実験研究棟
Annex Building for Research

4 農林海洋科学部4号館
Faculty of Agriculture and Marine Science Building 4

8 福利厚生会館(大学生協)
Student Welfare Center

7 学術情報図書館物部分館
及び講義室棟
Faculty of Agriculture and Marine Science
Library and Lecture Hall Building

6 厚生会館(非常勤講師宿泊施設)
Lodging facilities for Part-time Faculty

10 体育館
Gymnasium

テニスコート
Tennis Court

11 日章寮
Domyōryō

12 留学生寄宿舍
Dormitory for Foreign Students

13 国際交流会館
International Exchange Center

16 海洋コア総合研究センター
Center for Advanced Marine Core Research